

# 入門行政法

正木宏長 = 板垣勝彦 = 横田明美 = 海道俊明

## 担当編集から

行政法は、私たちの日常生活に関わる分野である一方、どこか抽象的でイメージしづらく、初学者にはとっつきにくいという声もよく聞きます。そこで本書は、とことん分かりやすさを追求し、約300頁とコンパクトながらも行政法の基礎をしっかりと身に付けられる一冊に仕上げました。

本文では、できる限り具体例を用いて解説することで、場面をイメージしながら学習できるよう工夫を施しています。また、内容や論点を整理しやすくするために、窓見出しや参照（リファレンス）を徹底して設けました。本書の冒頭には、行政法で問題となる紛争類型を4つに分類した図で示しています。各所で出てくる事例がどの類型に当てはまるのか、図を参照しながら、パターンを掴んでみてください。

初めて学ぶ方にも、行政法学習で躓いてしまった方にもおすすめできる一冊です。本書が、行政法に親しみをを感じるきっかけとなれば幸いです。(K)

## Point

窓見出しを多用した読みやすい構成! 理解を深めるためのコラムも充実。

## 第3章

### 行政上の不服申立て（行政不服審査）

行政上の不服申立て（行政不服審査）とは、行政機関に対し、行政活動に関する不服につき審理判定することを求める制度である。まずは、ともに行政争訟制度を構成する行政訴訟との違いや関係性について簡単に触れたうえで、行政上の不服申立制度の内容について概観していくこととする。

#### 1 2つの選択肢——行政訴訟と行政上の不服申立て

##### 選択肢の関係性

例えば、あなたが行政機関（行政庁）から納得のいかない処分を受けたとしよう。あなたの抱いた不服を解決するための方策として、現行法上は大きく分けて2つの選択肢が用意されている。1つは、裁判所に対し行政訴訟（この場合は特に取消訴訟）を提起する方法であり、もう1つは、行政機関に対し不服を申し立てる方法である。

両制度の関係については、かつては、必ず行政上の不服申立て（併用の語では「訴願」）を先に行之い、それに対する裁決を受けてからでなくては、行政訴訟を提起することができないという、**不服申立前置主義**（訴願前置主義）が採られていた（旧行政裁判法17条1項、旧行政事件訴訟特例法2条）。しかも、訴願の救済率は高くなかったため、このような例外を認めない前置主義は、国民にとって大きな負

216

#### 1 2つの選択肢——行政訴訟と行政上の不服申立て

担となっていた。その後、現行の行政事件訴訟法が昭和37（1962）年に制定され、同法は**自由選択主義**（行訴8条）を採用し、不服申立前置主義を明確に放棄した。これにより、個別の法律が前置主義を採用しない限り、直ちに裁判所に対し行政訴訟を提起することが可能となった。

#### コラム3-7 個別法による前置主義の採用

行政上の不服申立てに関する一般法である行政不服審査法は、平成26（2014）年に大きな改正がされており、それに伴って不服申立前置主義を採用する個別法の整理も行われた（行政不服審査法の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律）。これにより、不服申立前置を定めていた96法律のうち68法律で不服申立前置が全廃・一部廃止された（47法律で全廃、21法律で一部廃止）。改正後も前置主義が維持されているものは、①不服申立件数が大量であり、裁判所の負担軽減のため、不服申立段階で事件数を一定程度スクリーニングする必要のあるもの（国庫関連、国民年金関連など）、②高度な専門技術的事項について第三者機関が審理を行う必要のあるもの（公害被害関連、公務員関連など）、③第一審代替性のあるもの（特許関連など）、といった類型に分けられる。

#### 行政訴訟との違い

このように、現行法下では、行政活動について不服がある場合、原則として直接裁判所に訴訟を提起することも可能であるし、まずは行政上の不服申立てを行うことも可能である。それでは、仮にどちらか一方の手続きを採るとした場合、あなたはどちらを選択すべきだろうか。それぞれにメリット・デメリットがあるので、それらを勘案して選択することとなる。

217

# 行政法 入門

正木宏長  
板垣勝彦  
横田明美  
海道俊明

AN INTRODUCTION TO ADMINISTRATIVE LAW

MASAKI HIROTAKE  
ITAGAKI KATSUHIKO  
YOKOTA AKEMI  
KAIDO TOSHIKI

初学者の方、「行政法って難しい」と感じている方に向けて、基礎からわかりやすく解説した入門書！

有斐閣

## はじめてでも、ちゃんとわかる

詳細を見る



レベル - 用途 - 対象 -  
初級 学習 学部 一般

2023年12月発売 / 302頁 / 定価2420円（税込）  
四六判 / 並製

詳細は、小社ウェブサイトの本書のページをご覧ください。

